

第2学年2組 社会科学習指導案

平成26年11月27日(木) 第5校時
 指導者 教諭 青柳 慎一
 生徒数 男子18名 女子16名 計34名

1 単元名 欧米諸国のアジア進出と日本の開国（歴史的分野内容(5) 近代の日本と世界）

2 単元構成の視点

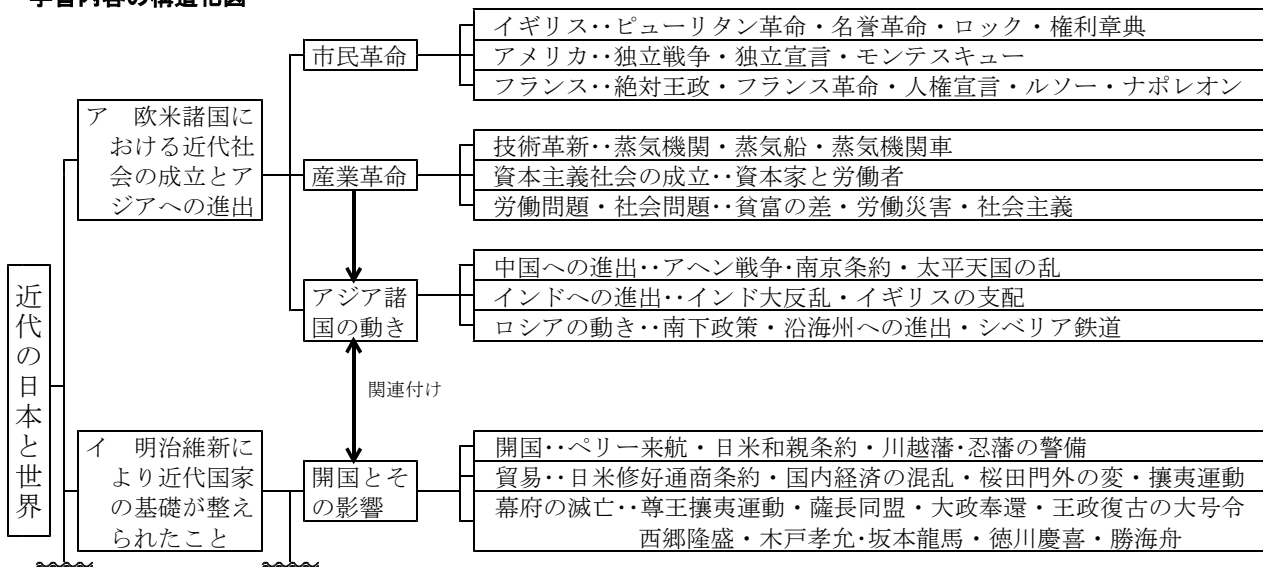
(1) 教材観

本単元は、歴史的分野内容(5)アと、イの「開国とその影響」について取り上げ構成する。開国とその影響については、学習指導要領の内容の取扱いにア「欧米諸国のアジア進出」と関連付けて取り扱うようにすることとあり、本単元はこの点を踏まえて構成するものである。

17世紀から18世紀にかけてヨーロッパでは啓蒙思想が説かれ、その影響を受けイギリスやアメリカ、フランスでは革命により近代民主政治への動きが生まれた。18世紀後半にワットが蒸気機関を改良し、やがて工場や炭鉱などで盛んに使われるなど技術革新が進むと欧米諸国の産業は飛躍的に発達し、資本主義社会が成立した。産業革命の進展に伴い、欧米諸国は新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めていく。中国(清)では1840年にイギリスとの間にアヘン戦争が起こり、近代的な兵器を備えたイギリスが清を圧倒し、南京条約を締結する。この条約はイギリスの領事裁判権を認め、清に關税自主権を認めない不平等条約であった。インドでは1857年にイギリスの支配に対する大規模な反乱が起こるが、イギリスはこれを鎮圧し植民地支配を強めていく。ロシアは沿海州へ進出し清や日本との間に衝突が起きた。

アメリカは、アジア貿易や捕鯨の中継地として日本に開国を求め、1853年にペリーが浦賀に來航し、翌年日米和親条約を結んだ。この過程で幕府は先例を破って大名に意見を求め、朝廷にも報告したため、大名や朝廷の発言力が強まるきっかけとなった。1858年には米英露蘭仏と通商条約を結んだが、相手国の領事裁判権を認め、日本の關税自主権を認めない不平等条約であった。貿易の開始により国内の物価が高騰し幕府に対する不満が高まった。幕府が朝廷の許可を受けずに通商条約を結んだことから尊王攘夷運動が盛んになった。しかし、直接欧米諸国と砲火を交えた薩摩藩や長州藩は攘夷が不可能であり、欧米諸国のような近代国家の設立が必要であることを悟り、薩長同盟を結び倒幕を目指した。これに対し、徳川慶喜は政権を朝廷に返上し(大政奉還)、260年余り続いた江戸幕府は滅亡した。

学習内容の構造化図



(2) 生徒の実態 ※HP上には掲載しません。

(3) 指導観

本単元では、欧米諸国における近代国家の成立やアジア進出といった世界の歴史を取り上げる。中学校では、世界史的な内容を我が国の歴史との関連で扱うことに留意する必要がある。特に市民革命や産業革命は、生徒にとって初めて学習する内容で既得知識が少ないため理解することが難しい項目であると思われる。一方、ペリーの来航については小学校で学習していて生徒の知識が定着している。そこで、これらの点を踏まえ、第1時でペリーの来航と日本の開国を取り上げ、第2時から第4時で日本へ開国を迫る欧米諸国の歴史的背景を、第5時と第6時で開国による影響を追究する学習展開を、単元の構成を工夫して設定することとした。その際、第1時で単元を貫く学習課題を設定して、生徒に課題意識をもたせ追究意欲を引き出していく。

幕府は、欧米諸国からの開国や通商の要求に対して苦渋の決断を迫られる。本単元では第1時でペリーの開国要求に、第5時でハリスの通商要求に対して、自分ならどのように意志決定するか考えさせるとともに生徒間で意見交換する学習活動を設定する。これにより当時の状況を疑似体験的にとらえさせて歴史的事象への関心を高め、多面的・多角的に歴史的事象をとらえる見方や考え方の育成を図るとともに、情報から読み取ったことを自分なりに解釈し意志決定した過程や結果を表現させる機会とする。当時の国際情勢をとらえさせる方策として、欧米諸国の動きを年表や地図を使ってまとめる作業的な学習活動を位置付ける。

欧米諸国のアジア進出については、地理的分野「世界の様々な地域」との関連を図り、アジア州

の地域的特色と歴史的な背景との結び付きについても着目させ理解を深めさせる。また、ロシアとの関係では日露和親条約に触れ、北方領土の歴史について理解を深めるよう配慮する。郷土の教材活用について、川越藩、忍藩が江戸湾の警備に当たったことや川口の鋳物業が大砲鋳造に関係したことを取り上げる。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の目標

欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きを通して欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させるとともに、開国により社会が混乱し幕府への不満が高まり明治維新への動きを生み出したことを理解させる。

(2) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
欧米諸国のアジア進出や日本の開国とその影響について関心を持ち、意欲的に追究してその特色をとらえようとしている。	欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国とその影響について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国とその影響について、様々な資料から情報を適切に読み取り、年表や地図に整理している。	欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと、開国による政治的・社会的な影響により明治維新への動きを生み出したことを理解し、その知識を身に付けている。

(3) 単元の指導と評価の計画（6時間扱い 本時1／6）

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価方法・観点
1 (本時)	ペリー来航と日本の開国 本時の課題 開国の要求に対して、幕府はどのように対応したのだろうか？ ○ペリーの開国要求に対してどのように対応するか考え、その理由について生徒間で意見交換する。 単元を貫く：欧米諸国は、どのような目的でアジアへ進出し、日本は、開国により学習課題 どのような影響を受けたのだろうか？	・小学校「黒船の来航」の学習との関連を図り、ペリーの開国の要求に対して幕府がどのような対応を取ったらよいか自分なりに考えさせ、本単元の学習に対する関心を高める。	・欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心を持ち、それを意欲的に追究しようとしているか、ワークシートの記述から評価する。 (関心・意欲・態度)
2	欧米諸国の市民革命 本時の課題 欧米諸国は、市民革命によりどのような社会になったのだろうか？ ○ヨーロッパで啓蒙思想が発展し、イギリスやフランスでは市民革命により絶対王政から市民を中心とする近代国家が成立し	・欧米諸国で起こった市民革命のあらましを年表にまとめてとらえさせるとともに、フランス革命を例に、近代民主政治への動きが生まれ	・市民革命についての情報を様々な資料から適切に読み取り、そのあらましを年表にまとめているか、ワークシートの記述から評価す

	アメリカが独立した過程を調べ、年表にまとめる。	たことに気付かせる。	る。(資料活用の技能)
3	産業革命と欧米諸国 本時の課題 欧米諸国は、産業革命の進展によりどのような社会になったのだろうか？ ○産業革命のあらましを調べ、産業革命の進展により欧米諸国でどのような変化が起きたのかを、イギリスを例に考える。	・欧米諸国で工業化が進み、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気付かせる。	・産業革命の進展による欧米諸国の変化を多面的・多角的に考察しその特色を捉えているか、ワークシートの記述から評価する。 (思考・判断・表現)
4	ヨーロッパのアジア進出 本時の課題 欧米諸国は、どのようにアジアへ進出していったのだろうか？ ○中国、インドについて欧米諸国の進出やロシアの進出の様子を調べ、地図にまとめる。	・欧米諸国が新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことに気付かせる。	・欧米諸国のアジア進出についての情報を様々な資料から適切に読み取り、地図にまとめているか、ワークシートの記述から評価する。 (資料活用の技能)
5	開国と不平等条約 本時の課題 開国により、日本の社会はどのように変化したのだろうか？ ○通商条約の要求に対してどのように対応するか考え、その理由について生徒間で意見交換するとともに、開国の影響について考える。	・通商条約が不平等な内容であり、国内の物価が高騰するなど幕府に対する人々の不満が高まり、尊王攘夷運動が盛んになったことを押さえさせる。	・開国による国内の影響を多面的・多角的に考察しその特色をとらえているか、ワークシートの記述から評価する。 (思考・判断・表現)
6	江戸幕府の滅亡 本時の課題 どのように倒幕への動きが高まっていったのだろうか？ ○尊王攘夷運動から倒幕運動に変わり、幕府が滅亡し、新政権の成立に至るあらましを調べ、年表にまとめる。 ○これまでの学習を振り返り、学習課題のまとめを文章で記述する。 学習課題のまとめの例 欧米諸国は産業革命によって工業生産が飛躍的に伸び、新しい市場と原料供給地を必要としてアジアに進出した。日本は開国後、不平等な通商条約を結び、国内物価が高騰したため幕府に対する不満が高まった。尊王攘夷運動が活発になるが、攘夷が不可能と悟った薩摩藩や長州藩は西郷隆盛や木戸孝允が実権を握り新政府の設立を目指し倒幕運動の中心となった。この情勢を見て幕府は大政奉還を行い江戸幕府は滅亡した。	・西郷らが攘夷の不可能を悟り、幕府に代わる新政府を設立して欧米諸国のような近代国家になる必要性を考えていたことに気付かせる。 ・開国による社会的、政治的な影響から明治維新の動きが生み出されてきたことに気付かせる。	・欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと、開国による政治的・社会的な影響により明治維新への動きを生み出したことを理解し、その知識を身に付けているか、ワークシートの記述と事後のテストから評価する。 (知識・理解)

4 本時の指導

(1) 本時の目標

ペリーの来航と幕府の対応について考える学習活動を通して、欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心を持ち、その様子を追究する意欲を高める。

(2) 本時の展開

過程	学習活動・内容	・指導上の留意点 ◎評価の観点	資料等
導入 5分	1 様々なペリーの肖像画を見て、 どうして様々な絵が描かれたのか 考えるとともに、ペリーが開国を 求めて来航したことを確認する。	・ペリー来航に対する当時の人々の 驚きと関心の高さに気付かせる。 ・小学校「黒船の来航」の学習と関 連付け、日本に開国を求めて浦賀 (東京湾)に4隻の艦隊で来航し たことを確認させる。 ・浦賀と江戸の位置関係を地図で押 さえさせる。 ・将軍の病気を理由に幕府は一年後 に回答すると約束したことを補足 する。	資料プリント 「ペリーの肖像画」 地図帳 p106 掛地図「日本全図」
課題 提示 2分	2 本時の学習課題と学習の見通し について、教師の説明を聞く。 本時の学習課題		
	開国の要求に対して、幕府はどのように対応したのだろうか？		
追究 ① 15分	3 これまでの外国船の出現と幕府 の対応について確認するととも に、ペリー艦隊の蒸気船の様子や 幕府が江戸湾に台場を築いて川越 藩や忍藩などがその警備を担当し たことについて教師の説明を聞 く。	・以前からロシア、アメリカ、イギ リスなどが来航し通商や補給を求 めていたこと、幕府が鎖国を祖法 とし通商を拒否してきたこと、異 国船打払令を出したが、アヘン戦 争の情報を基に取りやめたことを 押さえさせる。 ・ペリー来航により初めて蒸気船を 目の当たりにし、空砲の音に人々 が驚いたことを補足する。 ・川口の鋳物職人により大砲が製造 されたことを補足する。	年表(資料集) PC 「外国船の出現」 「ペリー来航図」 写真 「台場」「大砲」
	4 アメリカ大統領の開国を求める 親書やオランダ国王の開国勧告、 アメリカから帰国した漂流民の意 見についての資料を読み、欧米諸 国が開国を求める理由を考えると ともに、当時の欧米諸国の様子を 考える。	・親書からアメリカは補給、保護、 通商を求めていることを読み取ら せる。 ・勧告から欧米諸国がアジア進出を 進めていることに気付かせる。 ・漂流民の意見から、アメリカで市 民社会が成立していることに気付 かせる。	資料プリント 「大統領の親書」 「開国勧告書」 「漂流民の意見」
追究 ② 15分	5 幕府に意見を求められた大名の 立場になって、開国の要求に対し てどのように対応したらよいかを 考える。 ①個人でどのように対応したらよ	・これまでの学習事項を基に、開国 した場合と拒否した場合の双方に ついてどのような影響があるか考 えさせる。 ・自分なりに考えた過程と結果を、	ワークシート 意思表示カード

追究 ③ 10分	いか考え、その理由をワークシートに記述するとともに、意思表示カードで自分の考えを示して隣の人とペアを組み意見交換する。	意思表示カードを示しながら説明させる。 ◎欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心をもち、開国の要求に対する幕府の対応について意欲的に考え意見交換しようとしているか、ワークシートの記述内容や意見交換の観察から評価する。 (関心・意欲・態度) 努力を要すると判断した生徒に対する支援 → ・欧米諸国のアジア進出の状況を踏まえて考えていない生徒に対して、戦争になる可能性を補足説明し、考えをさらに練るよう促す。 概ね満足と判断した生徒に対する支援 → ・開国または拒否の一方から考えている生徒に対して、双方から考えた上で意志決定するよう促す。	
	② 3～4人でグループを組み、江戸湾を守る川越藩や忍藩の大名の立場だったらどうするか話し合う。 ③ 実際にどのような意見が寄せられたか、資料を読み取るとともに教師の補足説明を聞く。	・埼玉県に関連する教材を工夫することで、地域の歴史に対する関心をもたせる。 ・実際には意見がまとまらず、国内の意思統一が困難であったことに気付かせる。	PC「大名の意見」
	6 日米和親条約の内容を調べるとともに、ロシア、イギリス、オランダとも同様の条約を結んだことについて教師の説明を聞く。	・日米和親条約の内容を押さえさせるとともに、通商については認めなかったことに気付かせる。 ・ロシアは、プチャーチンが同時期に来航し、日露和親条約で千島列島に国境が定められたことや、伊豆で船を建造し、西洋式の造船技術獲得に影響を与えたことを補足する。	資料集 「日米和親条約」 「領土に関するパンフレット」
	7 単元を貫く学習課題と次時の学習について教師の説明を聞く。	・本単元では、単元を貫く課題を教師が設定することとする。	
整理 3分	単元を貫く学習課題 欧米諸国は、どのような目的でアジアへ進出し、日本は、開国によりどのような影響を受けたのだろうか？		
	8 本時の学習の評価について、教師の話を聞く。	・意欲的に学習に取り組んでいる様子を取り上げて賞賛し、生徒の学習意欲の高揚を図るとともに、自己評価能力の育成を図る。	

(3) 本時の評価

○欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心をもち、開国の要求に対する幕府の対応について意欲的に考え意見交換しようとしている。【関心・意欲・態度】

授業のポイント案

- ①生徒に課題意識をもたせる単元構成の工夫
- ②生徒の関心・意欲を高める意見交換の工夫